

各区地域包括ケアに関する取組

城南区

令和2年3月末現在

〇概況

【人口動態，地形，生活環境等の地域特性】 城南区は市のほぼ中央部に位置する住宅・文教地区である。区内を縦貫する地下鉄七隈線や横断する平成外環通り等の整備により，交通便利性の向上が図られている。大規模団地に加え中小の宅地開発が盛んとなり急速に市街地化・住民の定住化が進んだ結果，全市平均を上回るスピードで高齢化が進み，高齢化率が全市で1番高い状況である。 【高齢者の状況（高齢化率や介護保険受給者状況）】 高齢化率は全市で1番高率だが，別府校区の18.9%から堤丘校区の33.2%と校区でも幅があり，特にUR等大規模団地を抱える町内では高齢化が進んでおり，独居・閉じこもりや認知症等の高齢者への取組が急務となっている。 【社会資源（介護サービス事業所や医療機関，地域コミュニティの状況）】 区独自事業「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり事業」（20～28年度）より，複数の地域で住民を中心に事業所・施設も加わった活動が展開し，地域と共働した地域カフェ(H31年:22か所)や介護者の集い等が行なわれている。医療機関や介護事業所の分布は圏域毎に異なり，病院は区内9か所。区内には福大病院があり，平成26年に認知症疾患医療センターの指定を受けている。	人口（人）	123,618
	高齢者数（人）	30,515
	高齢化率（%）	24.7
	小学校区数 （自治協議会数）	11
	いきいきセンター 圏域数	5

〇地域包括ケアに関する現状と課題

- ・介護予防については地域での啓発や自主的な活動が推進され，市民の意識も高まってきている。今後は，より身近な場所で介護予防の取り組みを継続していくために環境を整備していく必要がある。
- ・市民の高齢期に向けた医療・介護等について事前に備える必要性への意識は，まだ低い印象がある。在宅医療・介護に関する市民啓発が，今後更に必要である。
- ・医療・介護の専門職は各団体で計画された研修会にて同職・多職種間の連携強化・資質向上が図られているところだが，今後ますます加速する高齢化への対応を進めていくためには，専門職の更なる在宅医療・介護に関する知識向上及び連携強化を進めていく必要がある。

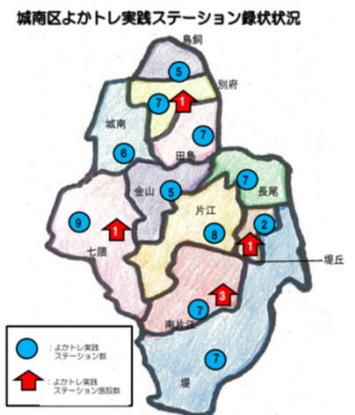
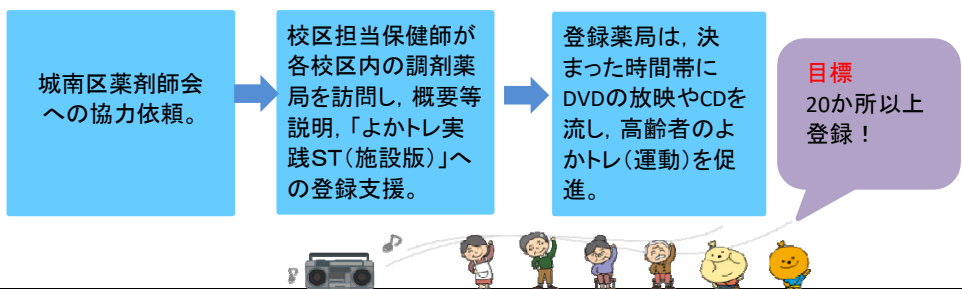
1. 令和2年度取組の中で，特徴あるもの

取組内容

①「城南区薬剤師会」と連携した介護予防の推進

H29年度から創出を進めている「よかトレ実践ステーション」は，現在76か所（施設版を含む） - 高齢者がより身近な場所で運動に取り組める環境を整えることを目指し，地域に馴染みの深い「かかりつけ薬局」を「よかトレ実践ステーション（施設版）」として登録を推進していく。

かかりつけ薬局を「よかトレ実践ステーション（施設版）」として登録推進



②在宅医療・介護の推進に向けた取り組み

R元年度在宅医療・介護部会を会議形式で初めて実施。市民及び専門職の在宅医療・介護の理解や連携について協議。専門職によるチームを作り，更に取り組みを進めていく必要性について意見が出された。



2. 令和元年度の取組状況

① 個別支援における成功事例, 課題など (個別支援会議の傾向など)

個別支援会議開催状況 13

② 住民同士の助け合い・支えあい活動

もっと知りたいご近所インタビュー(片江・南片江校区)



高齢者に関する地域の細かい情報や小さな困り事についての情報が十分把握できていない状況であるため、地域包括支援センター、区社会福祉協議会地区担当、地域保健福祉課校区担当保健師が協力して、全民生委員・児童委員34人に対し、地区民協終了後の時間を活用し、1対1で60分程度のインタビューを実施。より具体的に聞きとれるよう担当地区の白地図を用い、情報を書き込んだ付箋を貼付しながら進行。(6～11月)

【主な聞き取り内容】

- ・近所の良いところ、近所で困っていること
- ・自身が高齢者になった時に今の家で生活すると困りそうなこと
- ・あったら良いと思うもの等

【一つの校区内でも生活環境は様々、細やかなニーズが明らかになった】

- ・急勾配の地域で高齢者が増え、移動が不便。
- ・エレベーターのない団地で高齢者が増加。
- ・地域でカフェや高齢者サロンを実施したい。

地域を巡回するバス
ゴミ出し・買い物ボランティア
人が集まれる場所
があったら(居たら)いいな

【第3圏域連携会議を開催】

校区毎に「高齢化と地域情報」としてまとめた資料を作成。校区内の関連事業所にニーズに対してできそうなことを考えてもらい、南片江校区事業所ネットワーク会議の活性化、片江校区での事業所ネットワークの発足に向けて意識付けを行った。今後の地域活動の中で情報の共有化を図り、さらに検討を行っていく。

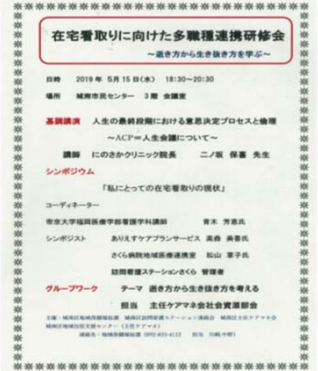
高齢者地域支援会議開催状況

- ・会議開催校区数：4校区、延べ回数：8回
- ・検討内容：認知症になっても安心して暮らせるまちづくり、高齢者の交流する取り組み（地域カフェ等）、支援が必要な高齢者の見守り、介護予防のための運動の取り組み

③ 在宅医療・介護連携や多職種連携の推進に向けた取組

在宅看取りに向けた多職種連携研修会 ～生き方から生き抜き方

H30年度、区による在宅看取りに関する聞き取り調査をCM、訪問看護、MSWへ実施。看取りに関わる中での専門職間の連携不足とその必要性・不全感と知識不足等の現状と課題が明らかになった。その結果をもとに、聞き取り調査を行った専門職を対象にACPの講演とシンポジウム形式の研修会を開催（城南区主任ケアマネ会、城南区訪問看護ステーション連絡会、城南区地域包括支援センター(主任ケアマネ)と共に計画・実施）。在宅看取りへの認識や考え方・取り組み方等について、再考する機会となった。



圏域連携会議開催状況

- ・会議開催：2回
- ・検討内容：障がい者機関相談支援センターと介護事業所との連携促進のためのGW、地域課題の共有と解決策の協議

④ 区レベルの取組

区地域包括ケア推進会議開催状況

【区地域包括ケア推進会議：1回】

1.高齢者保健福祉相談事業報告 2.地域包括ケアに関する取り組み報告 3.意見交換「高齢者支援における課題」【専門部会】 ①在宅医療・介護部会：1回、②権利擁護部会：2回、③生活支援・介護予防部会：1回

・検討結果等：在宅医療・介護に関する市民・関係職種間の理解や連携、高齢者の生活ニーズ、認知症高齢者の見守りと連携について検討。

(2) その他、在宅医療・介護連携の推進に関する取組、事業所ネットワークの活動等

取組	具体的内容
多職種連携研修会 (医師会委託事業)	区内を3ブロックに編成し、ブロック毎に開催。開催前後にブロック毎に各職種の代表を招集したリーダー会議にて、企画・反省会を実施。
同一業種による連絡会開催 ①ケアマネ連絡会、主任ケアマネ連絡会 ②訪問看護ステーション連絡会 ③地域密着部会	①ケアマネ会、主任ケアマネ会への参加、事例検討会等研修企画への後方支援。 ②県訪問看護ステーション連携強化事業の一環として連絡会・研修会開催の後方支援。 ③地域密着型サービス事業者による情報交換・交流会開催の後方支援。
権利擁護に関するシンポジウムの開催	H30年度権利擁護部会より提案された、身寄りのない高齢者への支援制度等の普及・啓発を目的に計画。「身寄りがなく生活に不安のある方の支援について～安心して老後の生活を送るために～」をテーマに、支援者の制度理解促進を目指し開催。
認知症講演会	認知症の理解を深める講演会として、元認知症の方の家族より家族の立場からの講話と事業所職員から本人の立場からの講話を計画・開催。
事業所ネットワークの活動	校区単位や圏域を超えた範囲で地域貢献・共働の活動や個別ケースへの支援等を行うネットワークが3つ活動中。連絡会への参加や、個別ケースへ連携して支援を実施。